

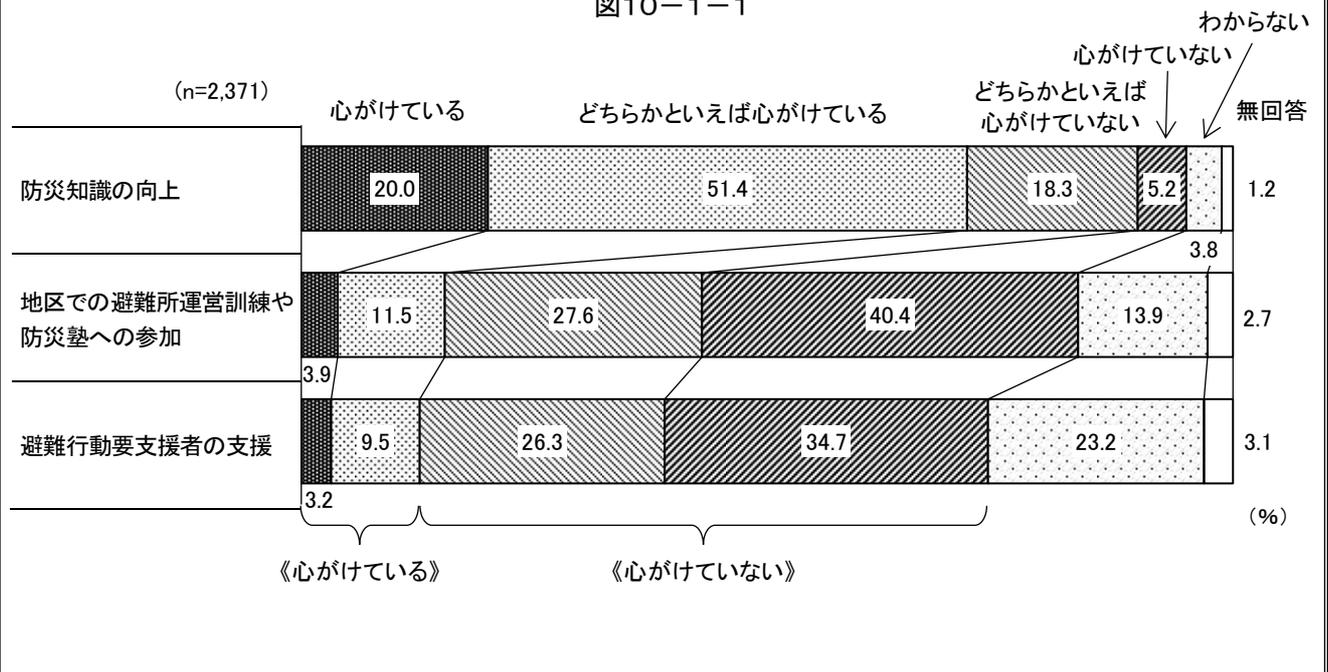
## 10. 災害時の備え

### (1) 防災への対処

◎「防災知識の向上」は《心がけている》が7割を超える

問35 あなたは、防災に対して日頃から心がけていることはありますか。(○は1つ)

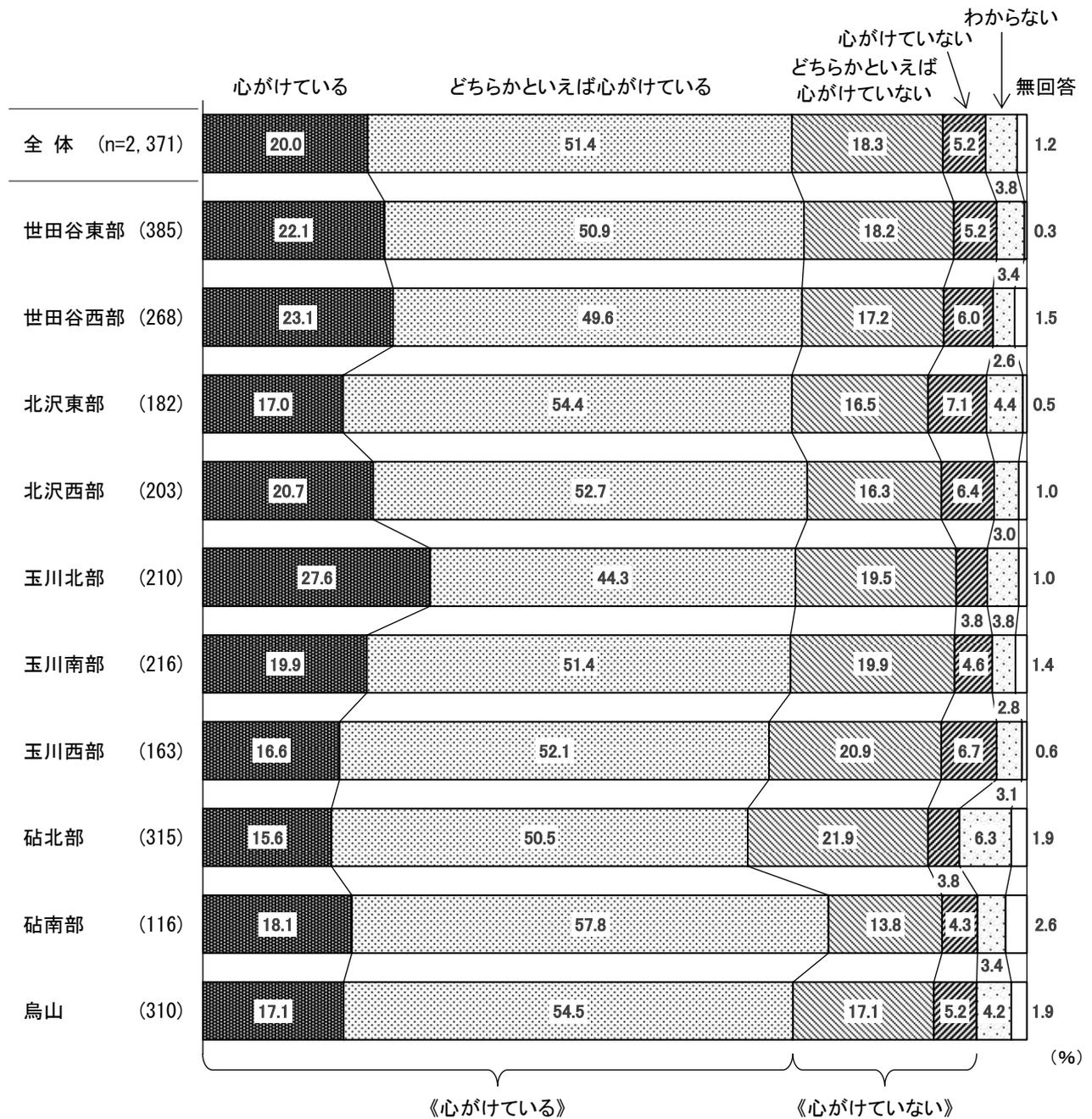
図10-1-1



#### <調査結果>

防災に対して日頃から心がけていることがあるか聞いたところ、「心がけている」と「どちらかといえば心がけている」を合わせた《心がけている》は「防災知識の向上」(71.4%)が7割を超え、「地区での避難所運営訓練や防災塾への参加」(15.4%)が1割半ば、「避難行動要支援者の支援」(12.7%)は1割を超えるにとどまっており、「防災知識の向上」を心がけている人が多い。「どちらかといえば心がけていない」と「心がけていない」を合わせた《心がけていない》は「地区での避難所運営訓練や防災塾への参加」(68.0%)が7割近くで他の2項目より高い。(図10-1-1)

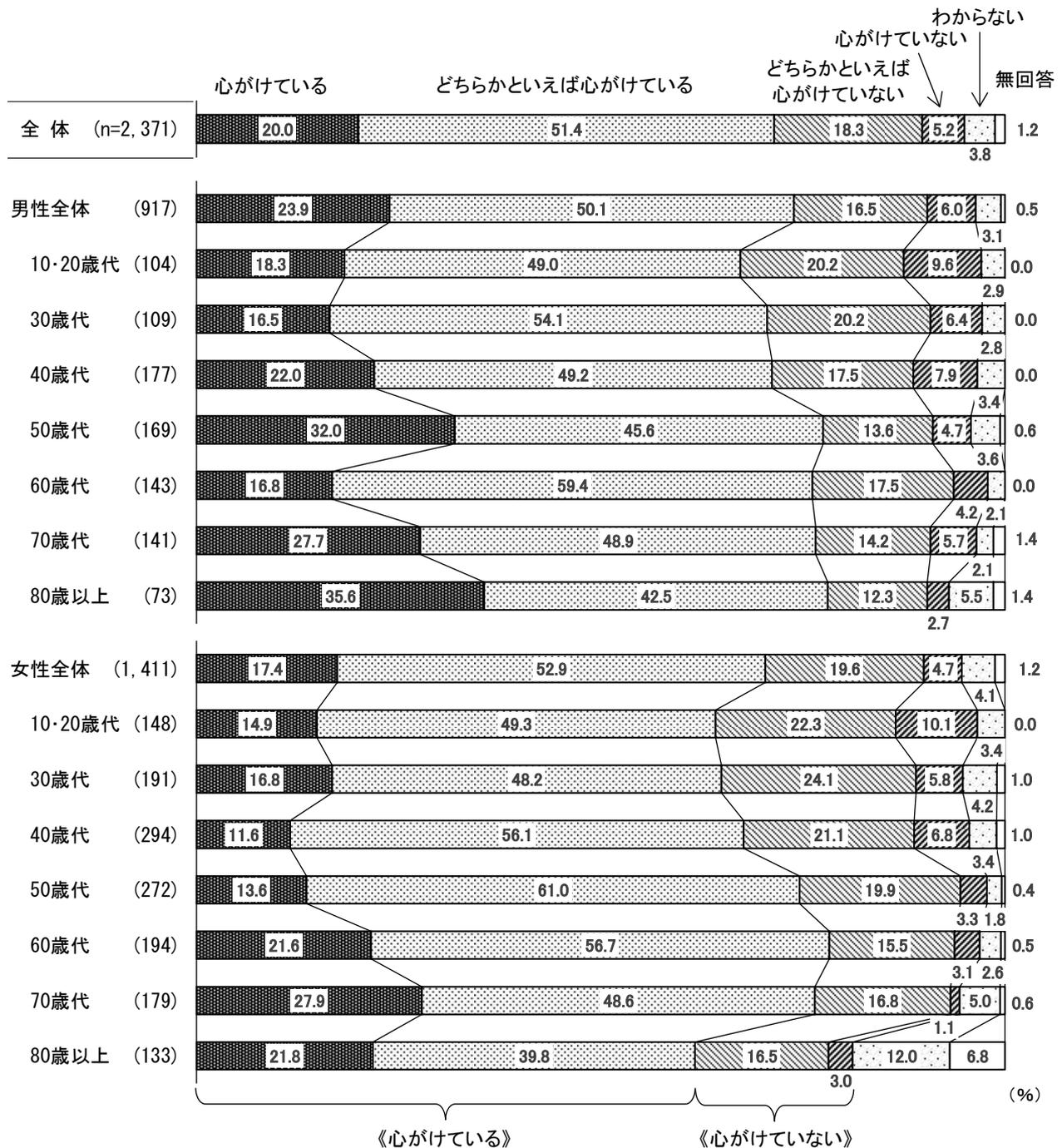
図10-1-2 防災への対処  
「防災知識の向上」(地域別)



<調査結果>

「防災知識の向上」について地域別にみると、「心がけている」は玉川北部で3割近く、世田谷西部と世田谷東部で2割を超え、北沢西部ではほぼ2割となっている。「心がけている」は砧南部で7割半ば、「心がけていない」は玉川西部で3割近く、砧北部と玉川南部で2割半ばとなっている。(図10-1-2)

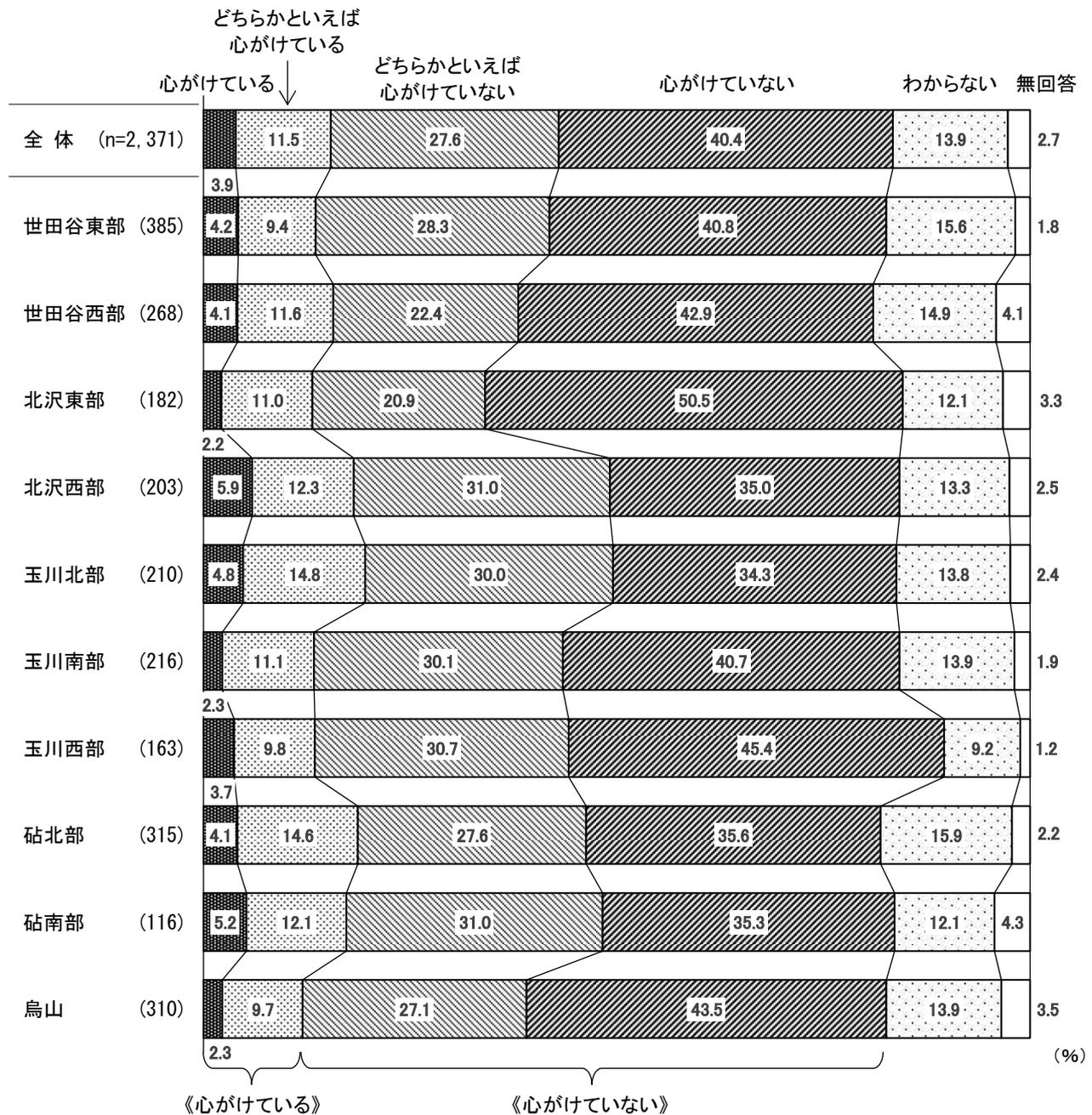
図10-1-3 防災への対処  
「防災知識の向上」(性・年齢別)



〈調査結果〉

「防災知識の向上」について性・年齢別にみると、「心にかけている」は男性の80歳以上で3割半ば、50歳代で3割を超えている。《心にかけている》は男性の50歳代と70歳代以上、女性の60歳代と70歳代が8割近くとなっている。(図10-1-3)

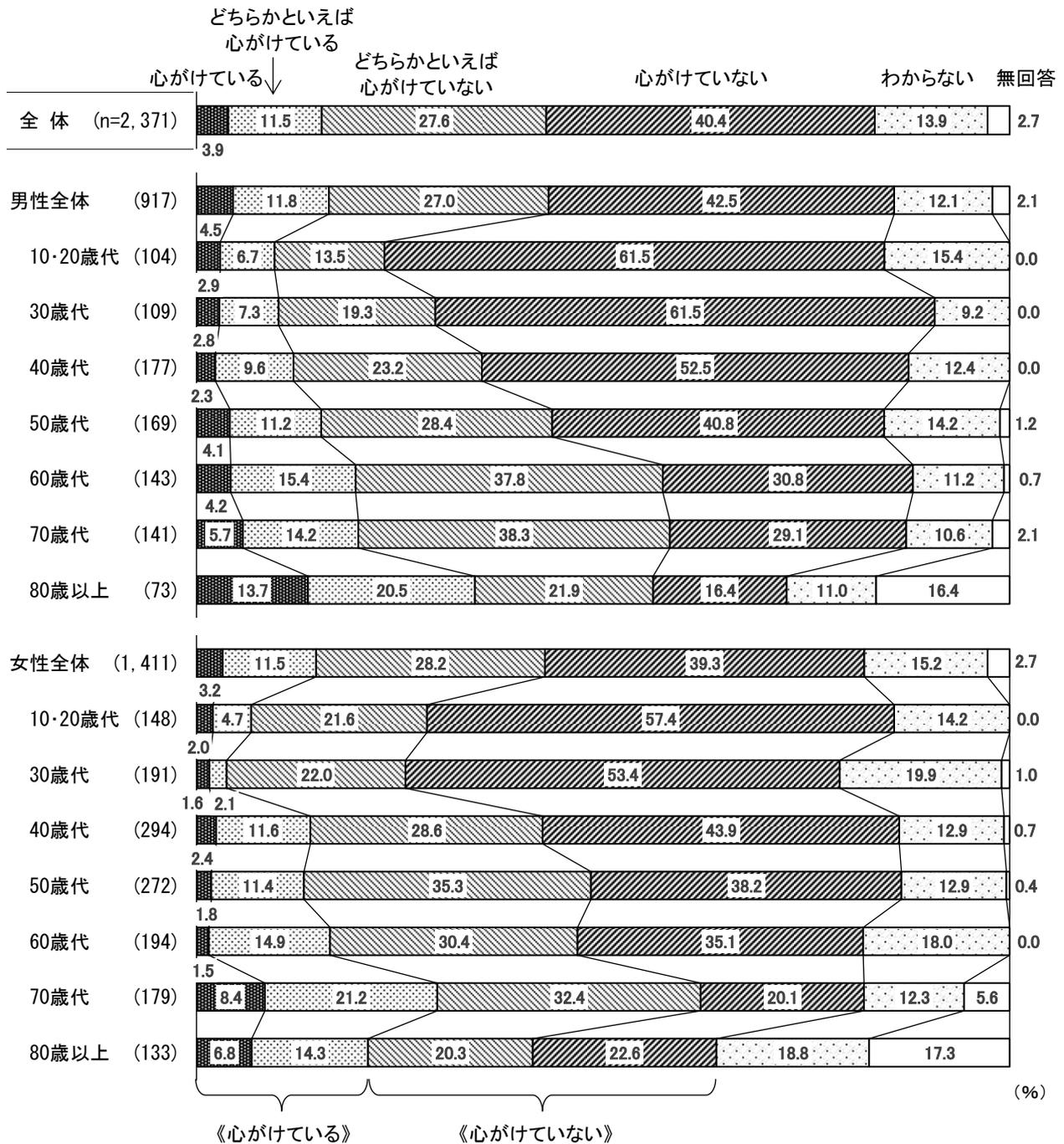
図10-1-4 防災への対処  
「地区での避難所運営訓練や防災塾への参加」(地域別)



<調査結果>

「地区での避難所運営訓練や防災塾への参加」について地域別にみると、《心がけている》は玉川北部で2割、砧北部、北沢西部、砧南部で2割近くとなっている。《心がけていない》は玉川西部で7割半ばとなっている。(図10-1-4)

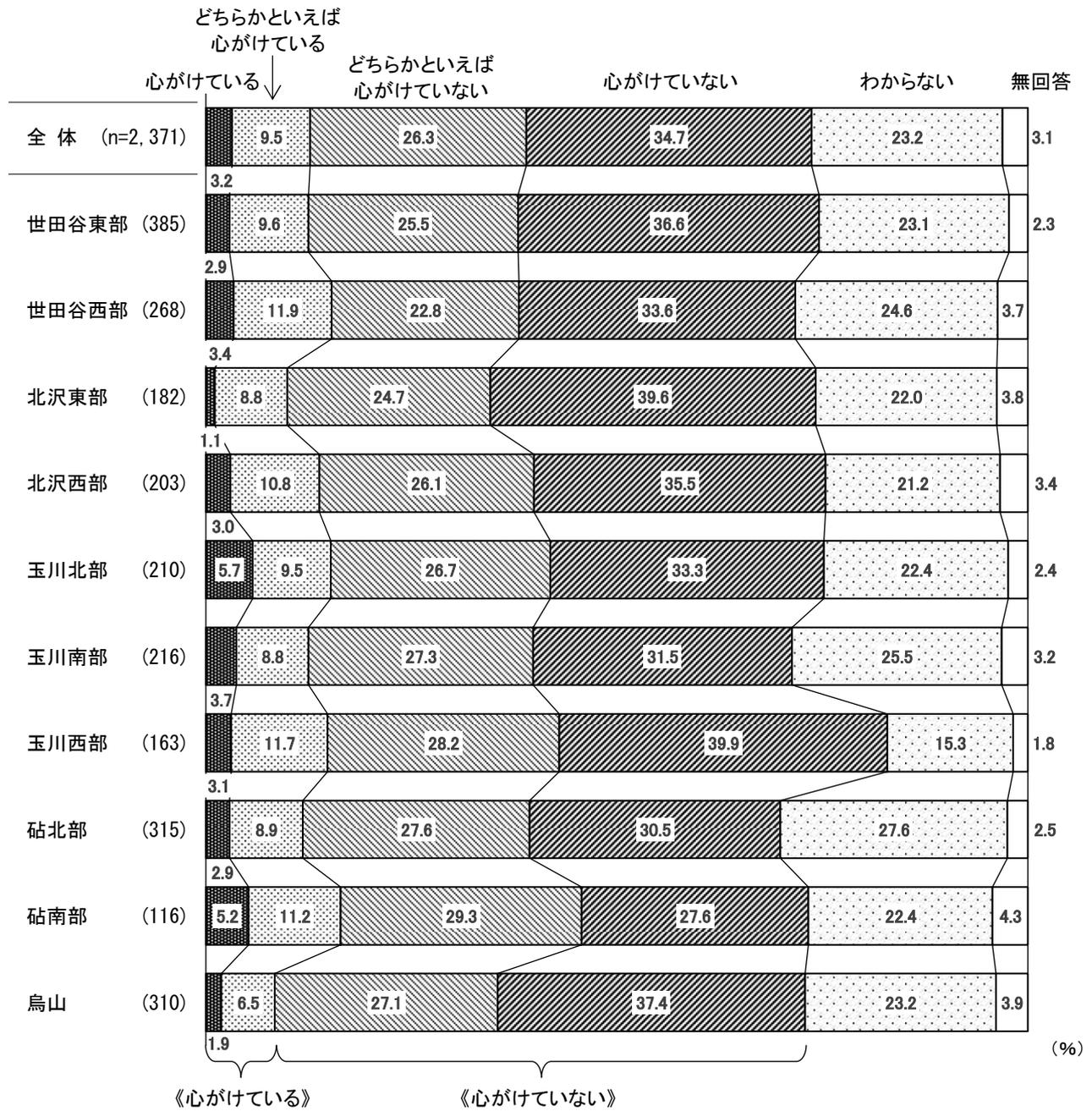
図10-1-5 防災への対処  
「地区での避難所運営訓練や防災塾への参加」(性・年齢別)



<調査結果>

「地区での避難所運営訓練や防災塾への参加」について性・年齢別にみると、《心がかけている》は男性は年代が上がるにつれ高くなる傾向にあり、80歳以上で3割半ばとなっている。女性は70歳代が3割で最も高い。《心がかけていない》は男性の30歳代と女性の10・20歳代がほぼ8割、男性の10・20歳代と40歳代、女性の30歳代が7割半ばとなっている。(図10-1-5)

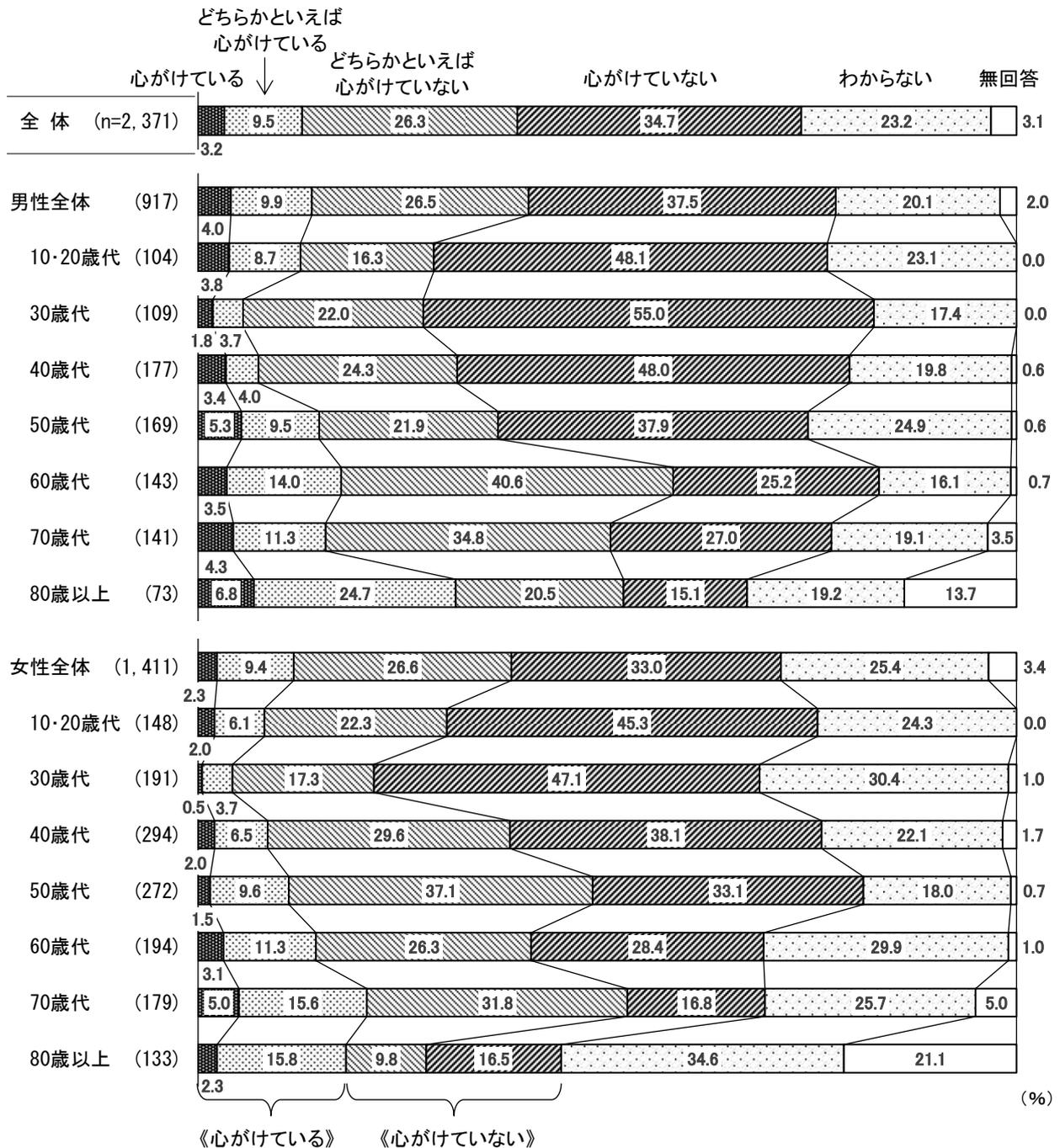
図10-1-6 防災への対処  
「避難行動要支援者の支援」(地域別)



<調査結果>

「避難行動要支援者の支援」について地域別にみると、《心がけている》は砧南部、世田谷西部、玉川北部、玉川西部で1割半ばとなっている。《心がけていない》は玉川西部で7割近く、烏山と北沢東部で6割半ばとなっている。(図10-1-6)

図10-1-7 防災への対処  
「避難行動要支援者の支援」(性・年齢別)



〈調査結果〉

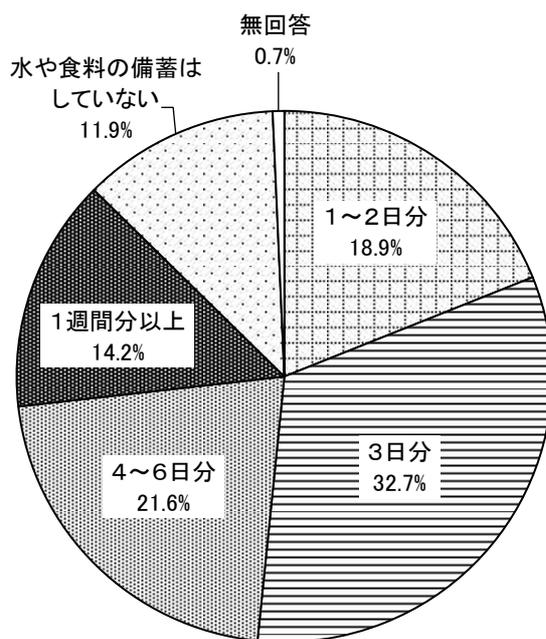
「避難行動要支援者の支援」について性・年齢別にみると、《心にかけている》は男性の80歳以上で3割を超え、女性の70歳代でほぼ2割となっている。男女とも30歳代が最も低い。《心にかけていない》は男性の30歳代で8割近く、40歳代で7割を超え、女性の50歳代で7割となっている。(図10-1-7)

## (2) 水や食料の備蓄について

◎水や食料の備蓄は「3日分」が3割を超える

問36 あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料は何日分備蓄していますか。(〇は1つ)

図10-2-1

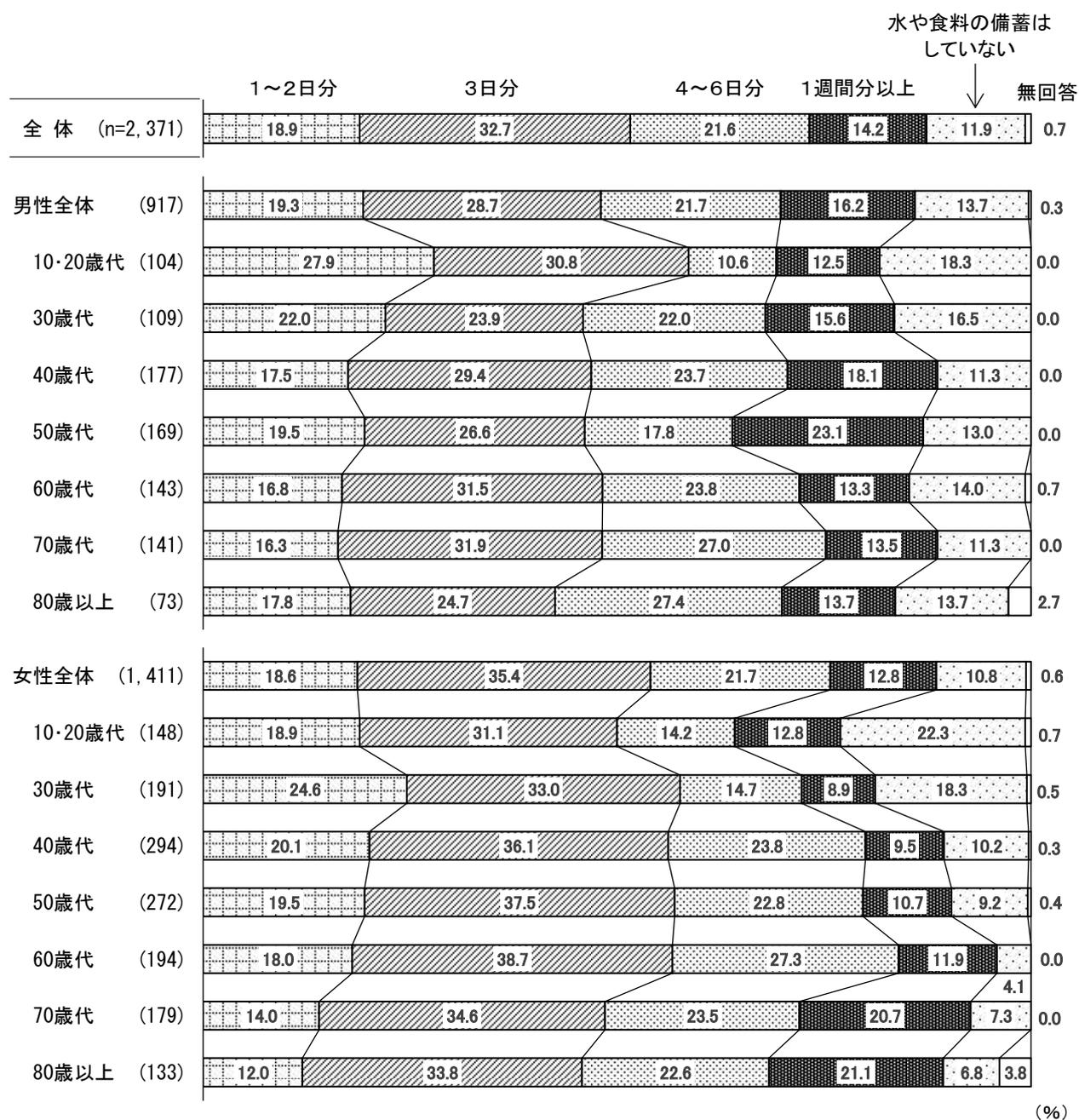


(n=2,371)

### <調査結果>

災害に備えて水や食料を何日分備蓄しているかを聞いたところ、「3日分」(32.7%)が3割を超えて最も高く、以下、「4~6日分」(21.6%)、「1~2日分」(18.9%)などと続いている。「水や食料の備蓄はしていない」(11.9%)は1割を超えている。(図10-2-1)

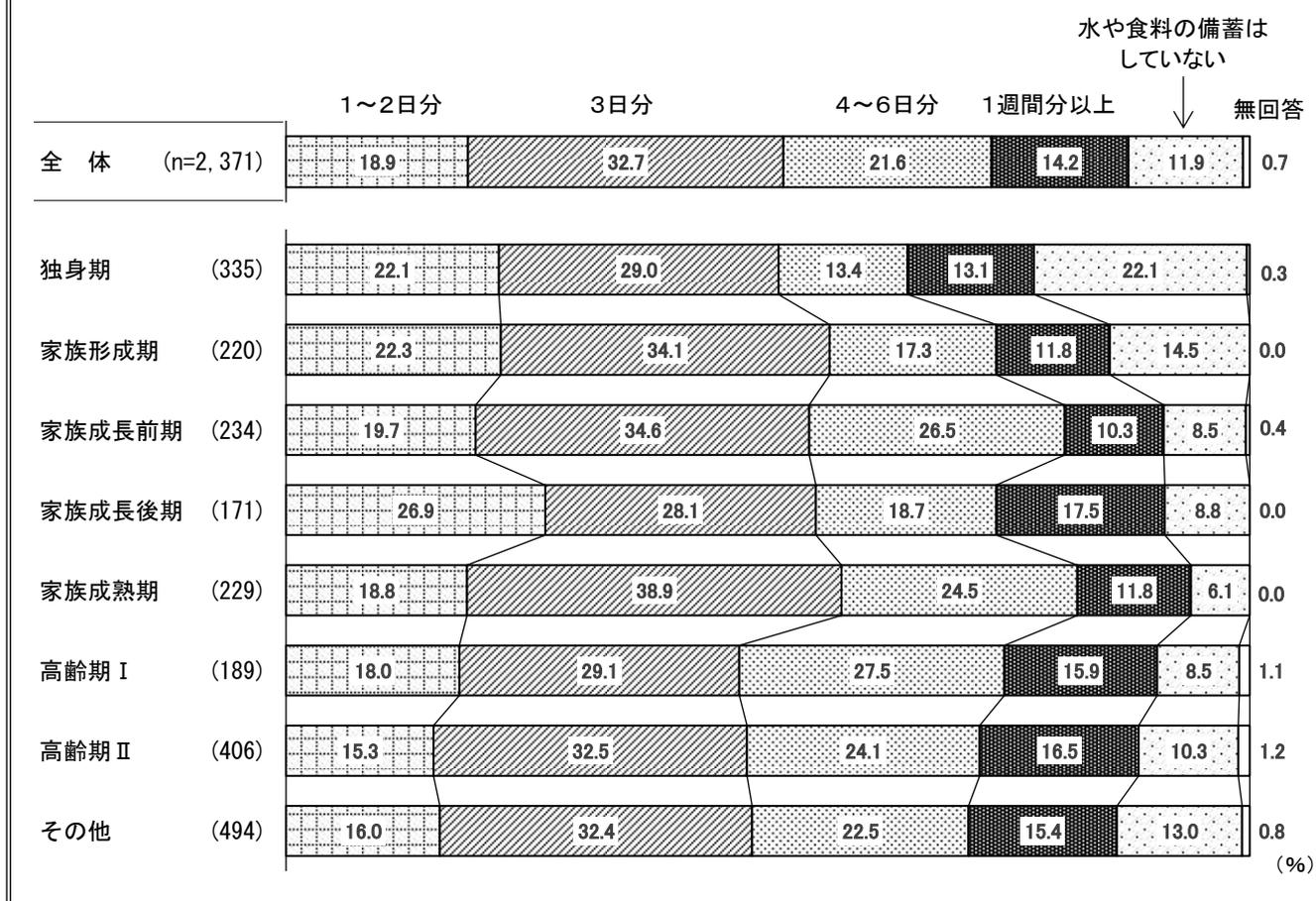
図10-2-2 水や食料の備蓄について(性・年齢別)



<調査結果>

性・年齢別にみると、3日分以上（「3日分」＋「4～6日分」＋「1週間分以上」）の水や食料を備蓄している割合はいずれの年代も5割を超えており、特に女性の60歳代以上は8割近くになっている。「水や食料の備蓄はしていない」は男女とも10～30歳代が他の年代に比べ高く、女性の10・20歳代で2割を超え、男性の10・20歳代と30歳代、女性の30歳代で2割近くとなっている。（図10-2-2）

図10-2-3 水や食料の備蓄について（ライフステージ別）



〈調査結果〉

ライフステージ別にみると、3日以上（「3日分」＋「4～6日分」＋「1週間分以上」）の水や食料を備蓄している割合は家族成熟期が7割半ば、高齢期Ⅱ、高齢期Ⅰ、家族成長前期が7割を超えている。一方、独身期で3日以上備蓄している割合は5割半ばで他のライフステージに比べ低い。

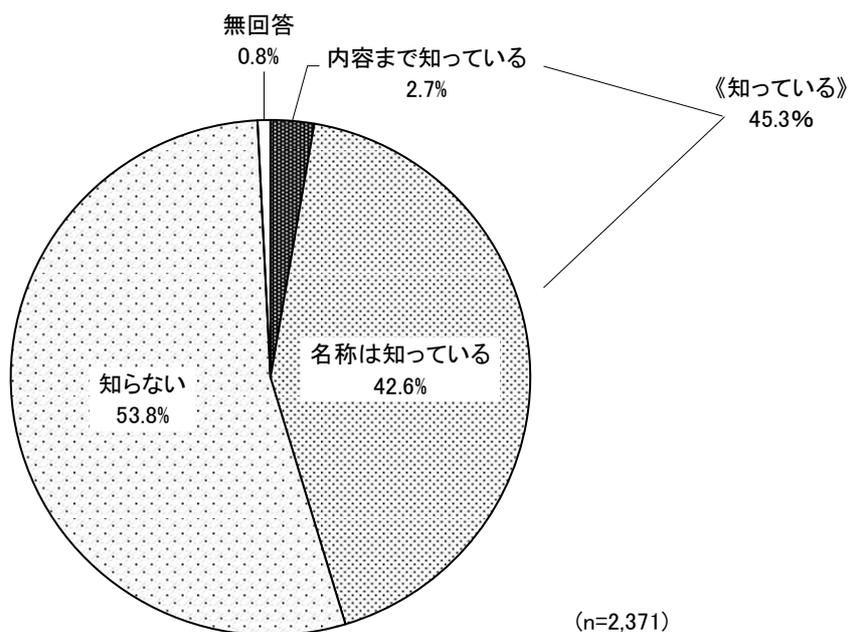
(図10-2-3)

### (3) 地区防災計画の認知度

◎地区防災計画の「名称は知っている」が4割を超えるが「内容まで知っている」は1割未満

問37 あなたは、地区防災計画を知っていますか。(○は1つ)

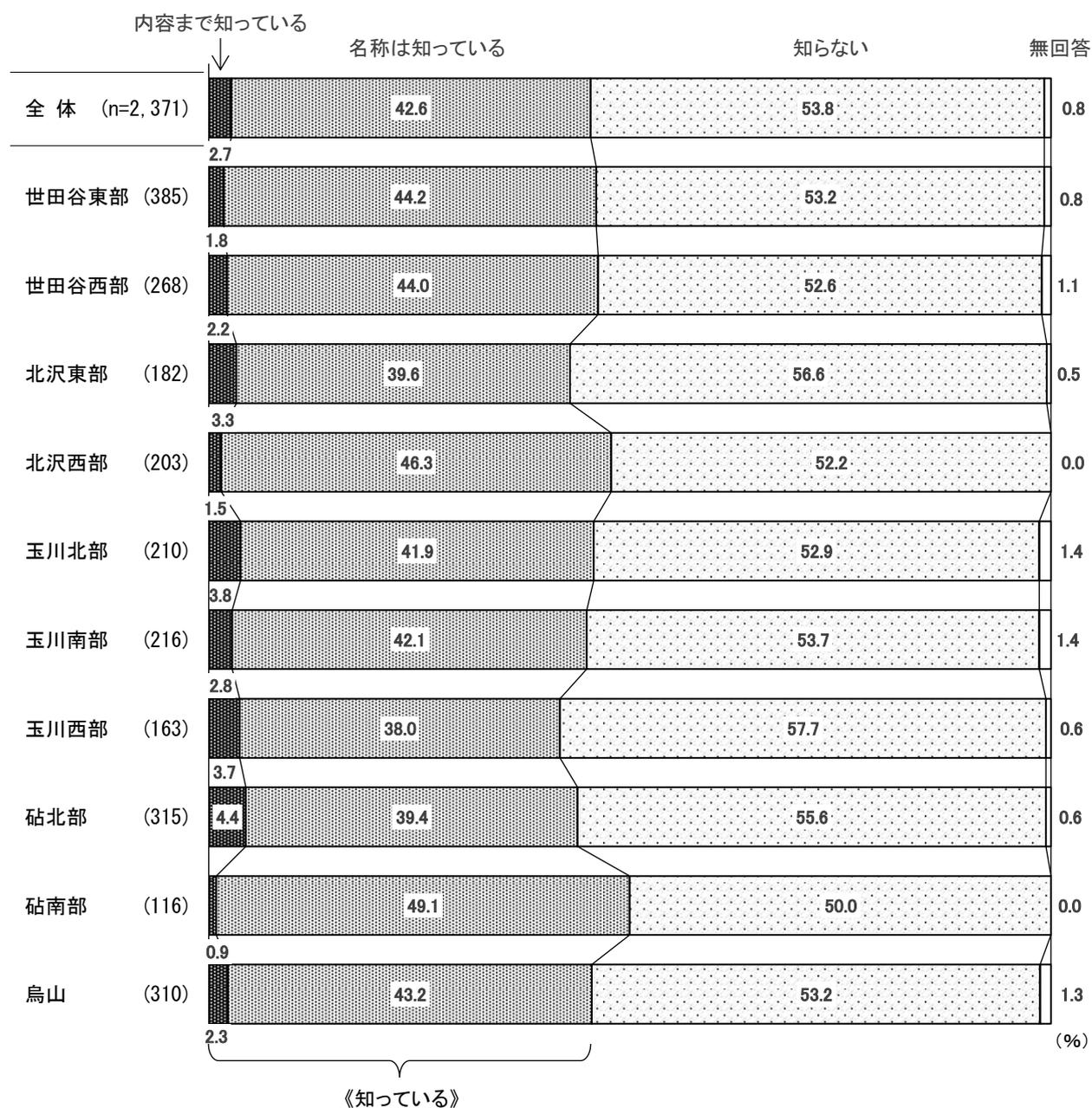
図10-3-1



#### 〈調査結果〉

地区防災計画の認知度を聞いたところ、「名称は知っている」(42.6%)が4割を超え、「内容まで知っている」(2.7%)と合わせた《知っている》(45.3%)が4割半ば、「知らない」(53.8%)が5割を超えている。(図10-3-1)

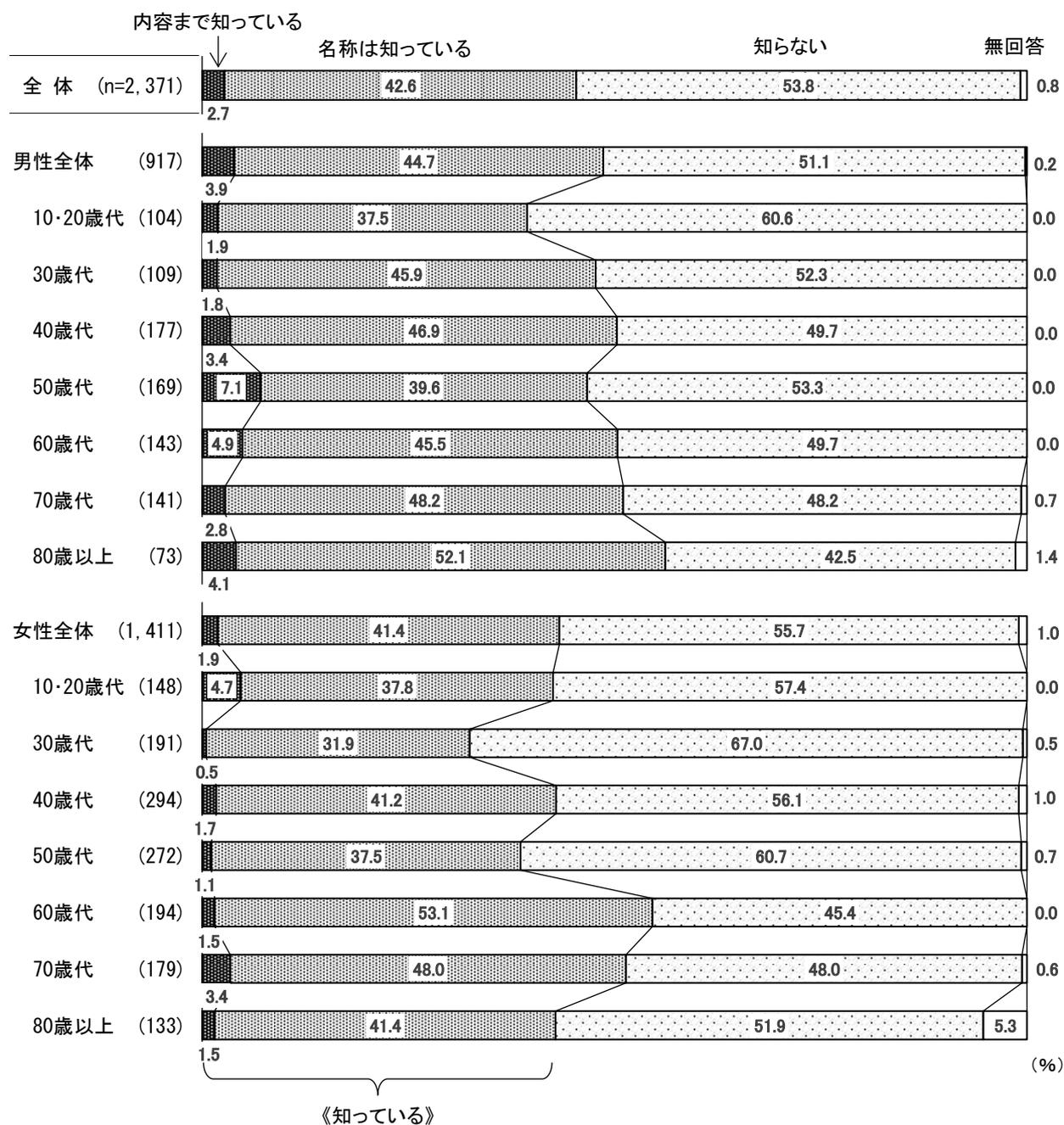
図10-3-2 地区防災計画の認知度(地域別)



<調査結果>

地域別にみると、《知っている》は砧南部で5割、北沢西部で5割近くとなっている。「知らない」は玉川西部と北沢東部で6割近く、砧北部で5割半ばとなっている。(図10-3-2)

図10-3-3 地区防災計画の認知度(性・年齢別)



<調査結果>

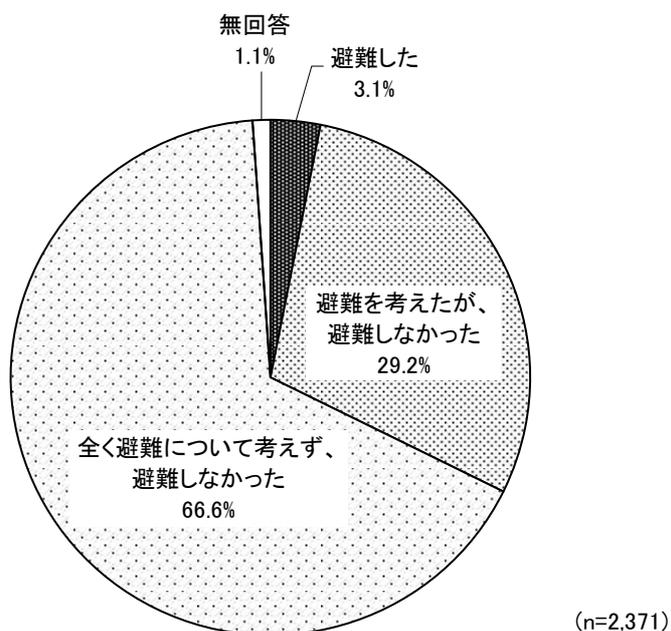
性・年齢別にみると、《知っている》は男性の80歳以上と女性の60歳代で5割半ば、70歳代の男女で5割を超え、男性の40歳代と60歳代で5割となっている。「知らない」は女性の30歳代で7割近く、男性の10・20歳代と女性の50歳代でほぼ6割となっている。(図10-3-3)

#### (4) 台風第19号接近時の避難有無

◎「全く避難について考えず、避難しなかった」が7割近く

問38 令和元年10月に台風第19号（令和元年東日本台風）が区に接近しました。台風の接近にあたって、あなたは避難しましたか。（○は1つ）

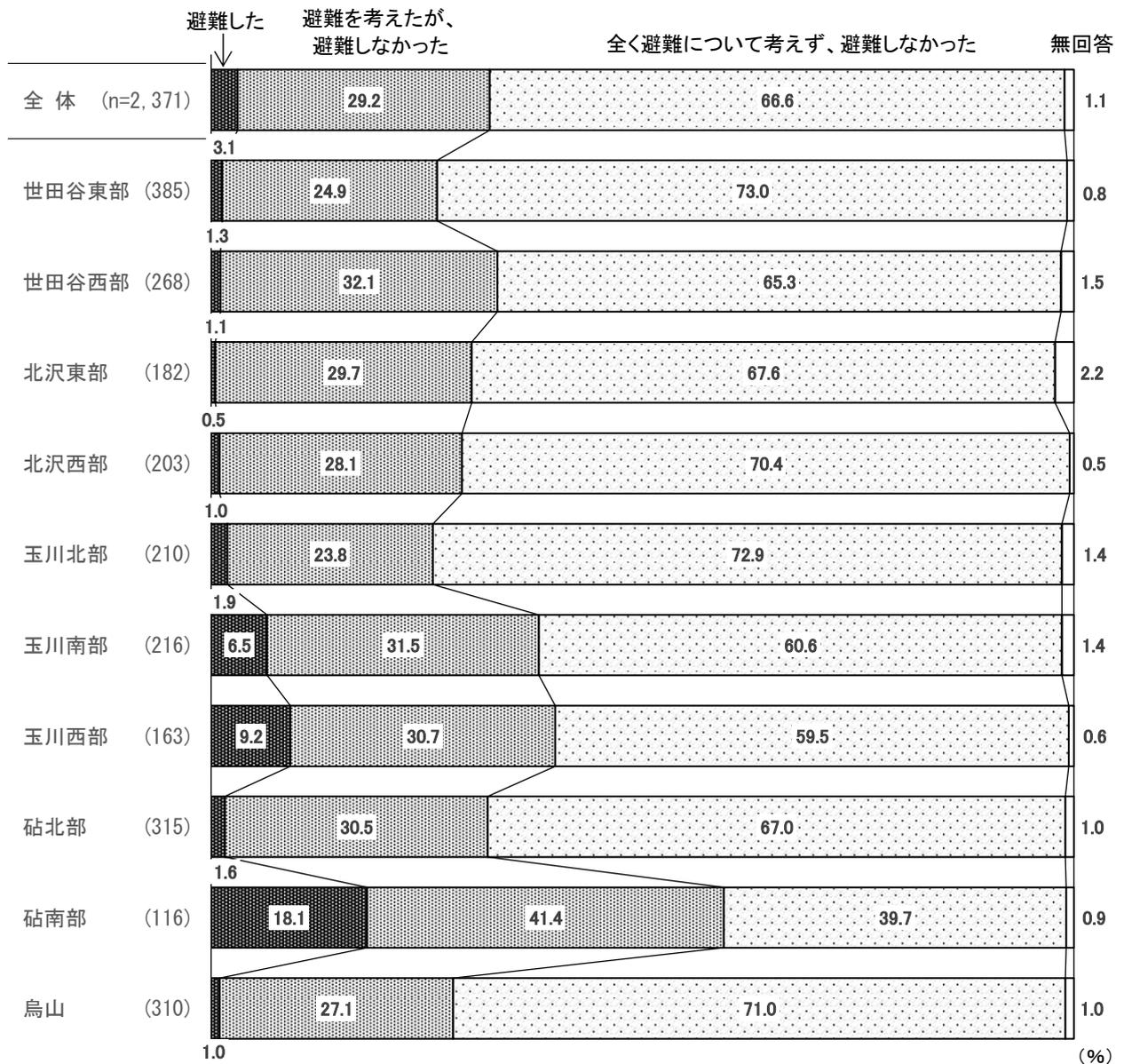
図10-4-1



#### 〈調査結果〉

台風第19号接近時の避難有無について聞いたところ、「全く避難について考えず、避難しなかった」(66.6%)が7割近くで最も高い。以下、「避難を考えたが、避難しなかった」(29.2%)、「避難した」(3.1%)となっている。(図10-4-1)

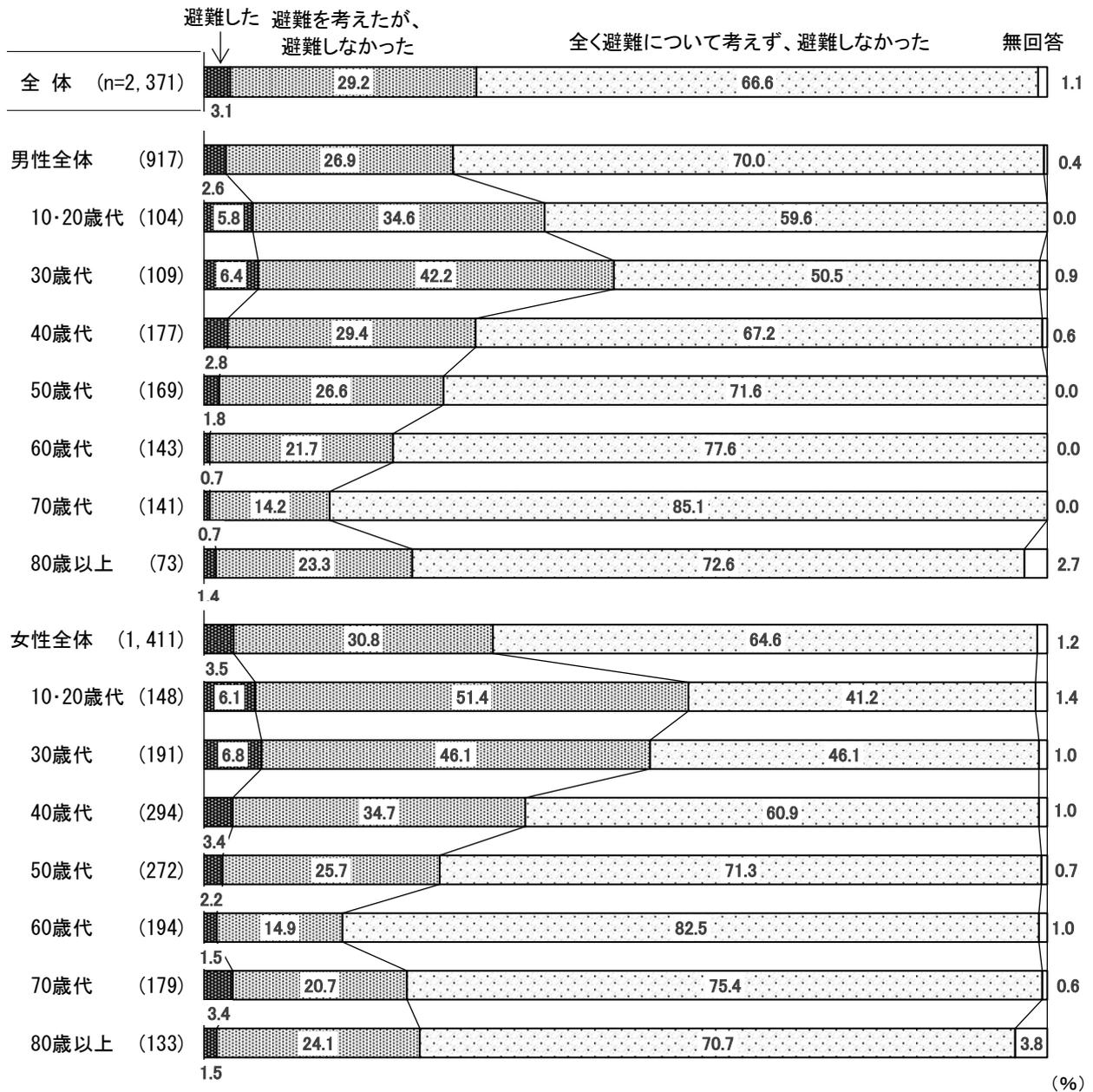
図10-4-2 台風第19号接近時の避難有無(地域別)



<調査結果>

地域別にみると、「避難した」は砧南部が2割近く、玉川西部がほぼ1割となっている。「全く避難について考えず、避難しなかった」は世田谷東部、玉川北部、烏山で7割を超え、北沢西部で7割となっている。(図10-4-2)

図10-4-3 台風第19号接近時の避難有無(性・年齢別)



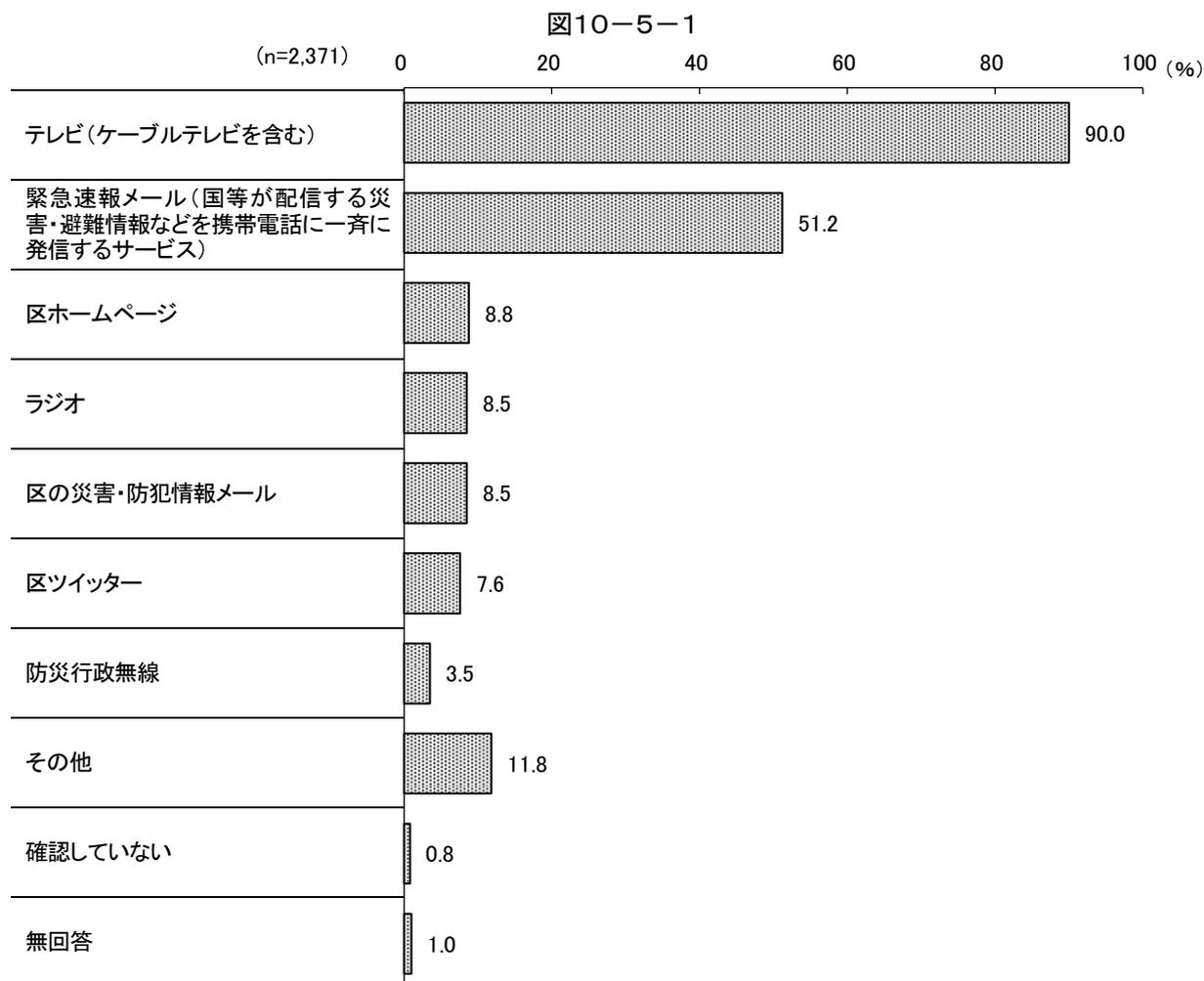
<調査結果>

性・年齢別にみると、「避難した」はいずれの年代も1割に満たなかったが、「避難を考えたが、避難しなかった」は若年層で高く、女性の10・20歳代で5割を超え、女性の30歳代で4割半ば、男性の30歳代で4割を超えている。「全く避難について考えず、避難しなかった」は男性の70歳代で8割半ば、女性の60歳代で8割を超えている。(図10-4-3)

(5) 台風第19号に関する情報の入手経路

◎「テレビ（ケーブルテレビを含む）」が9割、「緊急速報メール」が5割を超える

問39 台風第19号の接近にあたって、台風に関する情報（気象情報や避難情報等）を主にどのような媒体で確認しましたか。（○は3つまで）



<調査結果>

台風第19号に関する情報の入手経路について聞いたところ、「テレビ(ケーブルテレビを含む)」(90.0%)が9割と多数を占め、次いで、「緊急速報メール」(51.2%)が5割を超えている。(図10-5-1)

表10-5-1 台風第19号に関する情報の入手経路(性・年齢別)

(%)

	n	テレビ (ケーブルテレビを含む)	ラジオ	防災行政無線	区ホームページ	区の災害・防犯情報メール	区ツイッター	緊急速報メール(国等が配信する災害・避難情報などを携帯電話に一斉に発信するサービス)	その他	確認していない	無回答	
全体	2,371	90.0	8.5	3.5	8.8	8.5	7.6	51.2	11.8	0.8	1.0	
性・年齢別	男性全体	917	90.1	9.9	3.2	7.4	5.6	5.8	45.8	15.8	0.9	1.1
	10・20歳代	104	76.9	8.7	-	7.7	4.8	12.5	50.0	20.2	3.8	-
	30歳代	109	83.5	5.5	1.8	18.3	4.6	17.4	50.5	26.6	1.8	0.9
	40歳代	177	92.1	6.8	4.0	6.8	6.2	9.6	51.4	20.3	-	0.6
	50歳代	169	91.7	7.1	2.4	12.4	7.1	1.8	50.9	17.2	-	1.2
	60歳代	143	94.4	11.2	7.0	2.1	4.2	-	44.8	12.6	0.7	2.1
	70歳代	141	92.9	17.0	2.1	1.4	4.3	0.7	39.7	6.4	-	1.4
	80歳以上	73	95.9	16.4	4.1	2.7	8.2	-	21.9	4.1	1.4	1.4
	女性全体	1,411	90.2	7.7	3.7	9.8	10.3	8.9	55.1	9.2	0.8	0.7
	10・20歳代	148	86.5	1.4	3.4	8.8	6.8	23.0	52.7	14.9	0.7	0.7
	30歳代	191	84.8	7.9	1.6	17.3	6.8	15.7	58.6	15.7	1.0	-
	40歳代	294	88.1	3.1	3.1	13.9	18.7	9.9	59.5	15.3	0.3	0.7
	50歳代	272	91.9	4.8	3.3	11.8	12.5	7.7	59.2	8.1	1.1	0.4
60歳代	194	94.8	6.7	3.6	5.2	11.3	4.1	57.7	3.1	-	1.0	
70歳代	179	96.1	16.8	6.1	3.4	4.5	1.7	54.2	2.8	0.6	-	
80歳以上	133	88.7	20.3	6.0	2.3	3.0	-	31.6	-	2.3	3.0	

<調査結果>

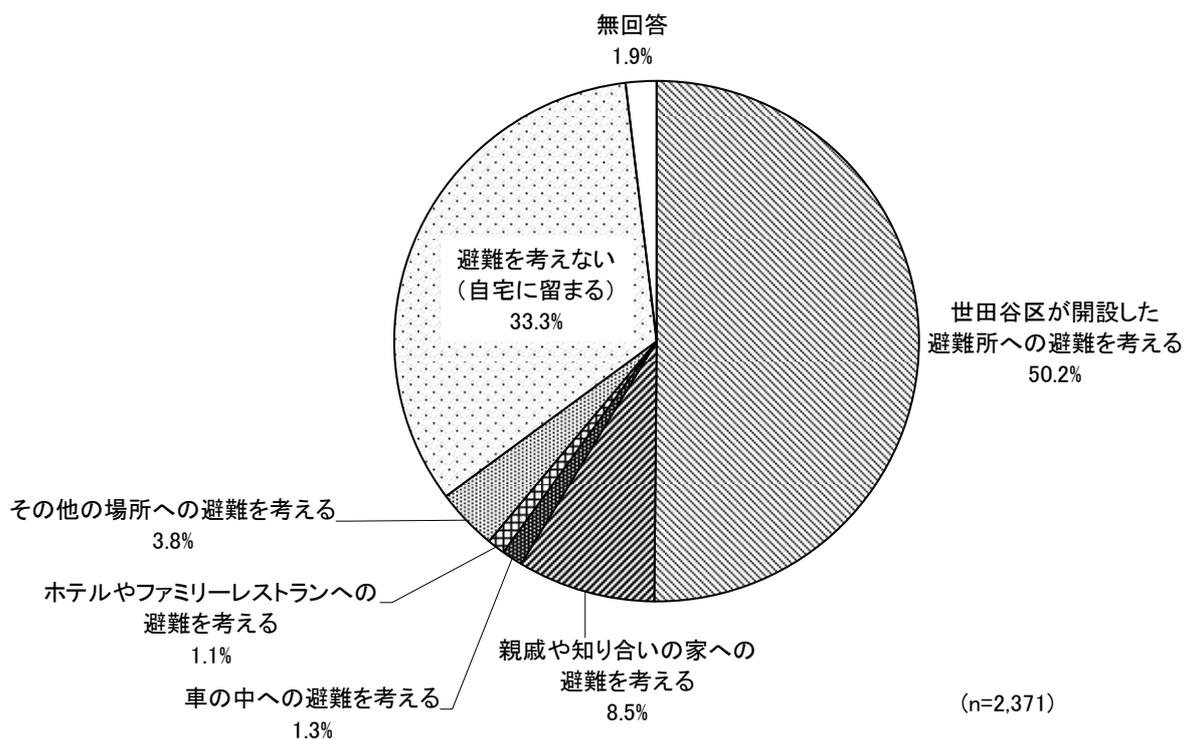
性・年齢別にみると、「テレビ(ケーブルテレビを含む)」はいずれの年代も最も高く、7割台～9割台となっている。「緊急速報メール」は男性は50歳代以下、女性は70歳代以下が5割台と高いが、男性の80歳以上は2割を超えるにとどまっている。女性の80歳以上は「ラジオ」が2割で、他の年代に比べ高い。(表10-5-1)

## (6) 避難情報が出された場合の避難意向

◎「世田谷区が開設した避難所への避難を考える」が5割

問40 今後、台風が接近し、お住いの地域を対象に河川氾濫や土砂災害等に関する避難情報が出された場合、あなたは避難を考えますか。(〇は1つ)

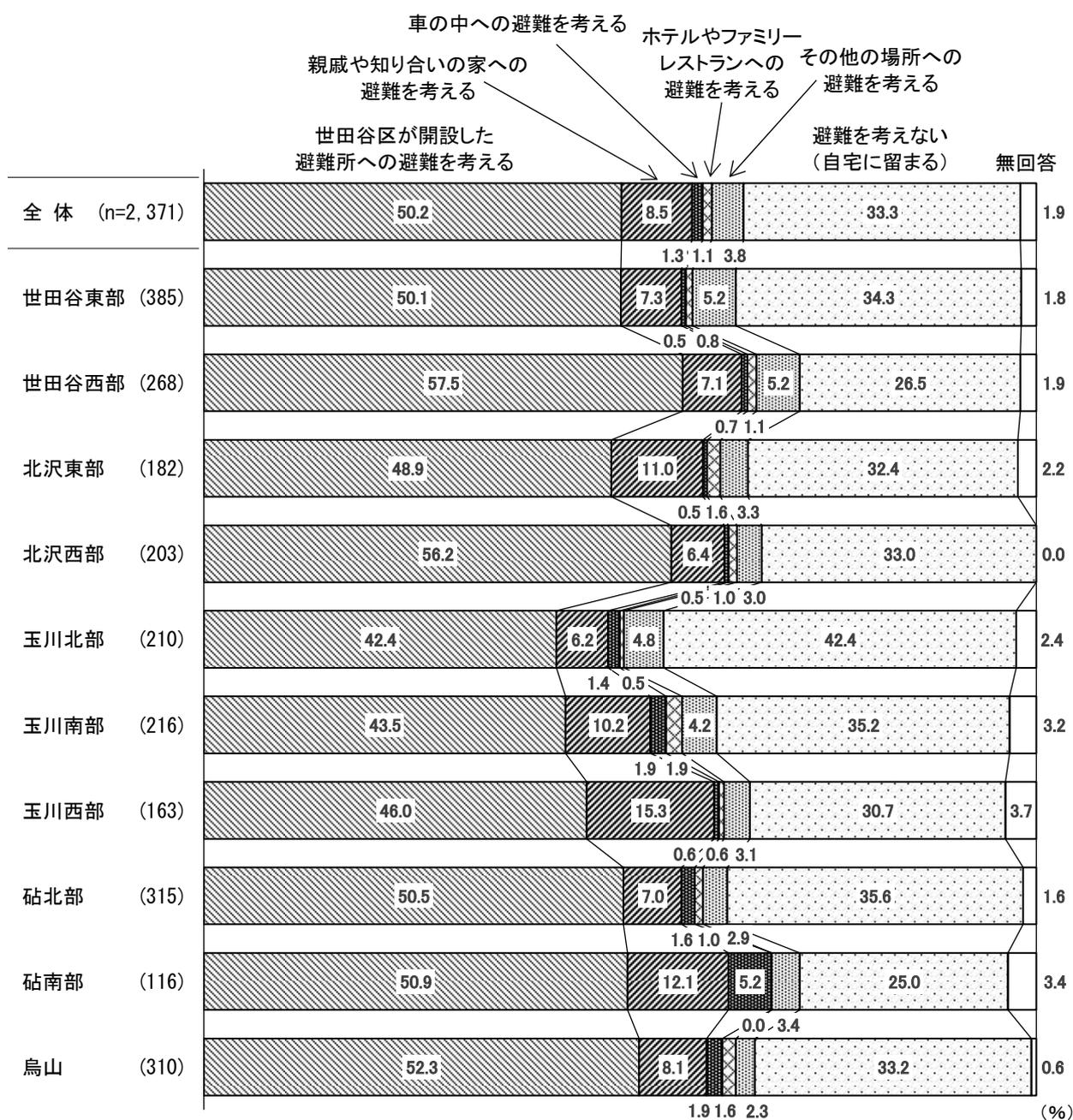
図10-6-1



### 〈調査結果〉

避難情報が出された場合の避難意向について聞いたところ、「世田谷区が開設した避難所への避難を考える」(50.2%)が5割で最も高い一方、「避難を考えない(自宅に留まる)」(33.3%)が3割を超えている。(図10-6-1)

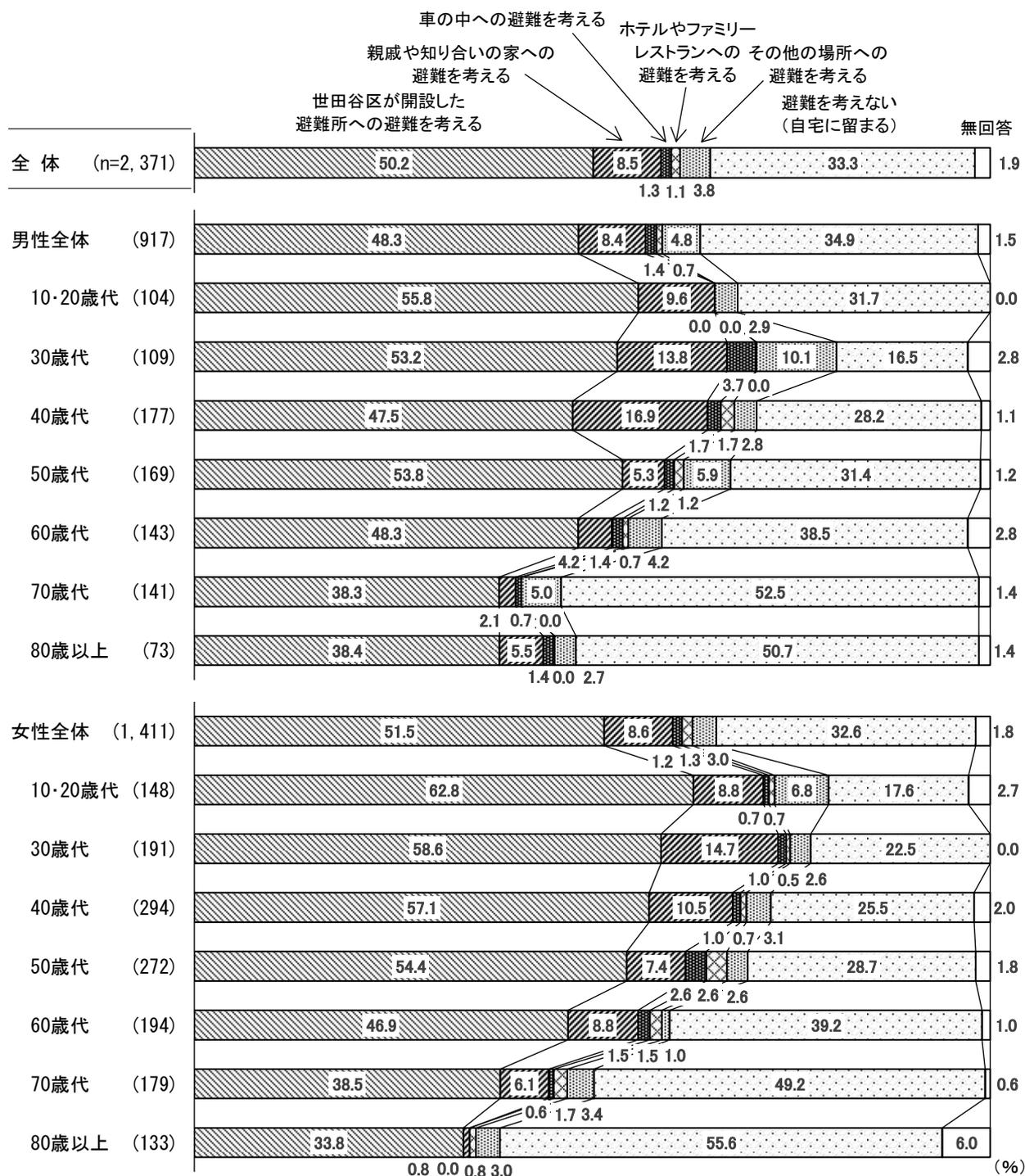
図10-6-2 避難情報が出された場合の避難意向(地域別)



<調査結果>

地域別にみると、「世田谷区が開設した避難所への避難を考える」は世田谷西部が6割近く、北沢西部が5割半ば、烏山が5割を超えている。「避難を考えない(自宅に留まる)」は玉川北部が4割を超え、砧北部、玉川南部、世田谷東部で3割半ばとなっている。(図10-6-2)

図10-6-3 避難情報が出された場合の避難意向(性・年齢別)



<調査結果>

性・年齢別にみると、「世田谷区が開設した避難所への避難を考える」は女性は年代が下がるにつれ高くなる傾向にあり、10・20歳代が6割を超え、30歳代と40歳代が6割近くとなっている。男性は10・20歳代が5割半ばで最も高く、70歳代以上は4割近くにとどまっている。「親戚や知り合いの家への避難を考える」は男性の40歳代が2割近く、女性の30歳代が1割半ばとなっている。(図10-6-3)